

令和7年度第1回駒来塾運営委員会

《日 時》	令和7年7月3日(木) 午前10時～11時
《場 所》	小牧市役所 本庁舎3階301会議
《議 事》	(1) 学習支援事業「駒来塾」概要について (2) 令和7年度の事業について
《出席者》	委 員：野田委員、西尾委員、山本委員、光部委員、河村委員、 梶田委員 (事務局)：川尻こども未来部長、野田こども未来部次長、松浦 指導主事、余語副主幹、小川こども政策課長、若林青少年育成係 長、舟橋指導員、武田指導員、岡野
《傍聴者》	なし
《会議経過》	以下のとおり

1 部長あいさつ

(川尻部長)

皆様には日頃から本市の青少年健全育成に格別のご尽力を賜り、厚くお礼申し上げます。また、本日はご多忙にもかかわらず、第1回小牧市学習支援事業「駒来塾」運営委員会にご出席を賜り、誠にありがとうございます。

さて、「駒来塾」につきましては、平成29年度から、本市のこども夢・チャレンジ推進事業の取り組みの一つとして、家庭環境により家で学習する機会がない、経済的理由により学習塾には通えない中学生の学習支援を目的に実施してまいりました。今年度も昨年度同様、この駒来塾事業の目的にご賛同くださっている「ヤマショー金属株式会社」様から、「困難な環境にあっても学習意欲のある子どもたちを引き続き応援したい」というお申し出があり、市へ120万円のご寄附をいただきました。いただいた寄附金は、子どもたちの学習支援いただく指導員やサポーターの謝礼、教材費等へ活用させていただきます。

駒来塾の運営について、委員の皆様には忌憚のないご意見を頂戴し、今後の運営に活かしていきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

2 委員・事務局紹介(事務局)

3 議 事

(1)学習支援事業「駒来塾」概要について

資料2に基づき事務局より説明

(2)令和7年度の事業について

資料3, 4に基づき事務局より説明

(3)その他

【質疑応答・意見等】

(野田委員長)

概要のところに経済的理由など様々なことが書かれているが、新しい委員の方に要綱などを配布しているのか。よく理解してもらえと思うので、後ほど他の方にも渡してほしい。

駒来塾は平成29年度から始まっていて、現在87名の児童生徒さんが47名の支援員とサポーターで進められている。講師の謝礼について昨年度に変更があり、支援員は1時間当たり1480円、サポーターは1200円と少し謝礼を上げてもらった。この財源についてはヤマショーさんからの寄付から賄っているということですね。

(野田委員長)

駒来塾の見学会案内を各校に配布することについて、校長会等々で説明されると思うが、その辺りの日程などを教えてほしい。

(事務局)

7月2日の校長会にて、見学会をするという案内を出しています。7月4日には教頭会議があるので、そちらで説明した後に各中学校へ配布します。

(野田委員長)

今年度から新しく南部会場ができたのですが、現在12名の生徒がいるということです。施設利用定員が13名ということで、あと1人しか応時中生は入れないということになるが、希望がたくさんあった場合どうするか、何か考えていることがあれば教えてほしい。

(事務局)

施設の空き状況により、ふらっとみなみでは小会議室を使用している。定員が20名の部屋ではありますが、1席ずつあけて隣に支援員が座れるような形で、口の字形で運営していて、12、3名ぐらいが適当な人数なのかなと考えている。

応時中の生徒は、原則、ふらっとみなみとなっているが、さらに多くの方から申し込みがあった場合は、小牧会場や北里会場が近くにあるので、そちらの方をご案内する予定です。

(光部委員)

退塾の理由をわかる範囲で教えていただきたい。

(事務局)

前向きな退塾というとらえ方ですが、週に1回の学習習慣に慣れてきて、中3になったりしてもっと勉強したいという子たちが学習塾に行くためというのが主な理由です。

(梶田委員)

南部地区ですけど、さきほど他の地区を案内すると言われましたが、例えば、部屋を変える等の手だては今後、可能なのかどうかを教えてください。

(事務局)

ふらっとみなみで行おうとしたとき、長期のスパンで会議室を使用している団体などが多く、駒来塾を開催できる曜日・場所が限られていました。今後、生徒数が増えてきた場合には、施設と調整して中会議室が空いているような場合は、部屋を変えることを検討していきたいと考えます。

(梶田委員)

増加するような傾向があるなら、長期スパンで検討してもらいたいと思います。

(西尾委員)

実施の回数が48回と書いてあるが、スケジュールがわかれば、3年生がいつまで通えるなど教えていただきたい。

(事務局)

48回のスケジュールですが、基本的に毎週、例えば東部でしたら木曜日に開催します。祝日、お盆、年末年始などは開催しません。また、3月の一番最後の週につきましても、開催しません。今年度ですと3月19日が最終になります。

(野田委員長)

予定表は生徒に配られているのですか。

(事務局)

配っています。

(野田委員長)

委員にも配布してください。

あともう1つですが、南部会場だけ水曜日開催で、あとの会場が木曜日開催ということで、これは指導員・支援員の方の数が確保できないから、水曜日にしようかということで去年計画されたように思いますが、将来的にもこのまま水曜日で行くのか、木曜日だけに統一していくのかその辺はどう考えていますか。

(事務局)

ふらっとみなみには木曜日に継続的に1年間使えるという部屋がありませんでした。木曜日に継続的にどこかの部屋が使えるようになった時に、支援員・指導員が十分確保されていれば、木曜日とする可能性もあると思います。今のところは準備が整っておりませんので、今後の検討かと考えています。

(野田委員長)

ありがとうございます。施設の関係もあつたということでしたね。

(河村委員)

ふらっとみなみの募集のことですが、兄弟で申し込みする場合に、募集の数を超

えて入塾できない場合、兄弟離れ離れになってしまうなど、どちらか片方だけしか入れないということはありませんか。

(事務局)

多少の配慮はさせていただこうと思っています。

(河村委員)

面接の内容をおしえてください。

(事務局)

家族構成、駒来塾に入りたい志望動機、塾に入ってどういう勉強の仕方をしたいなど、生徒が何に困っているかなどいろんな話をしている。

家庭の事情を話していただくこともあります。駒来塾は勉強するところなので、必ずそういう気持ちで来ていただきたい。もし他の人の迷惑になるのであればおやめいただくということもご承知おきくださいというような、確認をしています。

4 意見交換

(野田委員長)

各会場で困りごとがあるそうです。皆さんから何かアドバイスやご意見があればということでしたので、まず外国籍生徒・不登校の子への対応について、何かいいアドバイスがあればということですが、具体的にどんなことに困っているかを言っただけですか。

(事務局)

まず学力差が非常に大きくて、外国籍生徒と一言で言っても、生まれも育ちも日本の子や、最近来たばかりの生徒など様々です。不登校の子は小学校2年や4年から小学校に行っていないくて。適応教室にも在籍はしていますが、行っていない子がいます。塾には休まず来ている子もいます。

支援員さんは、気を使って、来週から来なかったらどうしようと心配しながらついでいただいているが、外国籍の子にしても不登校の子にしても、実際にはマンツーマンについてあげないと、とても週に1回で、得るものがあるということにならないです。先生方としては来てよかった感を残したいということで、人手が足りないということが、一番大きな悩みかなと思います。生徒3人から4人に1人の大人がついていますが、それでも足りなくて困っています。

(野田委員長)

という現状だということですので、何かアドバイスがあれば。

(西尾委員)

質問ですが、外国籍の方に対してのサポートはどのようなふうに行っているのか。

(事務局)

日本語は通じるが、日常言語と学習言語は全然違って、日常会話は困ってないが、中学生なので、歴史教科書とか漢字がいっぱい出てきます。数学も、単純計

算はできても文章題の理解が難しいです。

(山本委員)

やはり内容が難しいので、小学校の教科書を使ったりして、ほぼマンツーマンでやっていかないともう理解できない。小学校からの復習をしていただいて、本当に一対一でやっていくってということしかない。年間で見れば効果が出てくるのではないか。

(野田委員長)

人数が多いところに、常についていることは難しいですよ。目標としていることも、その子たちが全部できるようになりたいと思ってきているわけではないと思うので、ちょっとでもわかるようにということに来てくれているのであれば、今できる対応というのは、山本委員が言われたようなことが現状としては精一杯かな。もちろん支援員が増えればマンツーマンに近い形でできるだろうし、それはなかなか難しいところかもしれません。

不登校の子たちについても、その後についての目標があるので、来られるときに来て、来たときにできることをやってあげることが精一杯のところかな。楽しいとか或いはわかったということがあると、次もまた来てくれる。それでも体調が悪かったりとか、精神状態が安定しなくてこられなかったりすることもあるので、来てくれたときは精一杯の対応はします。

(西尾委員)

不登校もどこも多くて、外国籍はもちろんたくさんいますので、今そうやってマンツーマンでとか小学校の教材でできることをやっていただいているところで本当にありがたいと思いますが、学校の方とも情報共有できればいいのかなと思いました。

(野田委員長)

それぞれの会場でその日の活動記録をつけていますね。必要なことであれば、共有することは可能ですかね。

(山本委員)

ちょっと大変ですよ。個人情報があるので、相当慎重にしないと。

(光部委員)

私は今、北里会場で学習支援員としてもやっておりますが、同時に学校地域コーディネーターという立場ではあるので、親でもないし、教員でもないの、割とその生徒たちの不登校ぎみの子もちょっとした話を母親のような気持ちで聞いてあげるとか、学校で何か困ったことはないかなと、違った目線からちょっと声をかけると、意外に話してくれたりすることもあり、苦手なところとか、友達にも教員にも聞けない、学習のわからないところとか悩みっていうところも打ち明けてくれることもありますので、そういった意味でも学習支援員をちょっと充実させていただければ、いろんな話し相手になれるのではないかと思います。

(野田委員長)

学習支援員の上限は決まっていますか。

(事務局)

上限は特に決まっていますはいないです。

(野田委員長)

希望される方がおみえであれば、個別に対応したり相談なども聞いていただいたりするような人員を確保することは可能だということですね。

(事務局)

現在は通常の運営をする上では十分な人数がそろっています。大人1人に対し生徒3人ぐらいであれば十分ですけれども、個別に対応が必要な場面などになると人数が足りないということにもなります。あとは地区によって、登録されている方の多い少ないもありますので、支援員の確保もつなげていきたいと思います。

(野田委員長)

困り感がある子どもたちがいるのであれば、それに対応して学校との情報共有はなかなか難しいですけれども、例えば、これ勤務時間外になってしまいますが、開催しているときに様子を見に行ってくださいとすることで、直接お話を聞いていただくことは可能だと思うので、そういったことで情報共有ということもできると思います。特に本当に気になる子であれば。

(山本委員)

2、3回休むと家庭連絡してもらって事情を聞くことになっていますので、そういう対応で安心してくれるかなと思います。不登校の子どもも、学校に行けなくても塾に来てくれるという子もいますので、そういう人間関係を作っていくところで、学習面も向上してくるという気がします。

(野田委員長)

共有しながら、支援の方も増員を考えていきながらということで、個別対応に近いというか、今よりも対応できる環境を作っていけたらなということを思います。もう1点、一部生徒の問題行動に苦慮しているということが出ております。

(事務局)

立ち歩きとかおしゃべりとかスマホの使用があります。大幅に遅刻して来たり、何も持たないで来たりもします。帰りに塾生じゃない友達と待ち合わせをしていて、まっすぐ帰っていないだろうと思われる生徒がいます。ほんの一部ですが、対応に困っています。一旦個別に指導すると、一時的にはやりますが、なかなか長続きしません。最初に面談を保護者とさせていただいて、繋がりを作っているので、どうしても困ると家庭連絡をしています。

月に1回か2回しか顔を見ないので、なかなか生徒指導をきちんとやるなどの人間関係がこちらもつけれない。保護者等も面接のときにお目にかかっただけなのでなかなか伝えにくい。そのままにしておくと、他の子の学習環境にあまりよくない影

響も出てきているので、どうしたものかと思っています。欠席はしないです。いい意味で言えば居場所になっていますが、たまり場かもしれなくて、難しい。

別の子は先週連絡をして今日実際に本人の勉強しているところを見学してもらう予定です。

(梶田委員)

これ難しいですね。要するにこれに対応すると手が足りないですね。来ている子たちが見てもらえないというふうな思いがあって、「私ももういいわ」というふうになっては困る。

(山本委員)

実際3年ほど前にありました。できるだけそういう目配りをしないといけないし、本人についても対応しないと動けないということで、やっぱりスタッフの拡充が、緊急ですね。

(野田委員長)

保護者の方に来ていただいて、最初に目標としていたことや、その状況と合っているかどうか見ていただいて、またおうちでも話してもらうのはいいと思います。うるさくて学習できないという不満を持っている子はきつとうちでしゃべっているの、そういう方にも来ていただいて実際に見ていただくというのもいいと思います。

(河村委員)

児童館も中高生は来ますが、児童館職員と中学生、高校生たちとの関わりというのも信頼関係を築くほどではなくて、来るとスマホをいじったりだとか、卓球をやっている、扱いが悪かったりとか。塾は、保護者の方と面識があって、連絡できるという環境にもあるので、また何か困ったときに連絡がとれるというのはすごくいい方法だと思います。

児童館だと、こどもとしかやりとりができないので保護者というのがなかなか難しい。何か困ったことをちょっとお伝えするだけでも違うと思います。

(梶田委員)

外国人や不登校の問題もそうだと思いますけど、こどもと関わるとその子を何とかしたいと思う気持ちが強くなっていくのではないかなという感じで聞いていました。ただ、関わるにも限界はあるので、どこかでぱっきり切るところも必要ではないか。あまり関わり過ぎないことが一番だと思うし、そこは保護者にも伝えておくべきだし、本人にも伝えないといけないと思います。

本人には、大事にしていけないわけではないよということを伝えていかないといけないと思う。特に中学生は本当に多感なので、ちょっとしたことで大事にされてないと思って注目して欲しい行動がそういうことになっていくと思うので、その辺が肝心かなと思う。

保護者を交えて、本人の気持ちを聞きながら、話し合うとどういうふうにしたいのかとかどんなことを考えているのかとか、その辺を聞くためにも、少し時間をかけて関わっていく必要があるかなと思います。

ただ関わりすぎるとやれなくなってしまうので、みんなが倒れると意味がないので、そこはちゃんと守って関わることかと思います。どこまでも横着している子は、寂しいからという部分と、注目して欲しいという部分が強いと思うので、その辺のところを、認めてあげるのが一番かなと。勉強することだけでできてないと思うので、例えば10分でもいいからじっくりしゃべってみるとか、そんなシフトを考えてみてもいいかなと思っています。

支援は人数に限りがあるので、なかなか個別対応は難しいなか、人員を増やすということで対応していただいていると思います。親御さんに来ていただいて話すこともそうですし、本人に話すことも大切なことだと思います。できることはこれだけだっというものがきっとあると思うので、そこは理解していただくしかないです。なかなか支援している方にとっては、たくさんの問題点とか考えなければいけないこともあって大変だと思いますが、できる範囲でということだと思います。やっていただけたらと思いますし、無理なものは無理ということで、伝えていかなければいけないかと思います。

(山本委員)

支援員とか、ボランティアさんですけど、本当にこどものことを考えて、そういうことが好きで、本当に丁寧に対応してもらっています。基本的にはこどもの顔を見てしゃべったり話を聞いたりということですので、本当に頭が下がります。ですからもうちょっと人数が増えればもっとできます。本当に無理言いますが、よろしくをお願いします。

(野田委員長)

切実な思いを語っていただきました。ヤマショーさんからの寄附にも限りはあるかと思いますが、有効に活用していただければと思います。

5 その他

次回 第2回委員会 令和8年2月予定